

目次

口絵 馬場 弘融 i
「あいさつ」 宮地 正人 ii
監修に当たって iii

例言

第一篇 第二回特別展 新選組 京都の日々

I 京都の日々

第一章 「京都」でのとまどい 3
第一節 天誅の嵐吹く京都 4
第二節 「都」の敷居の高さ 7
第三節 壬生出身、山崎丞の活動 8
第四節 「兵は東国に限る」 8
第二章 新選組の超法規的武装集団化 9
第一節 京都の市中警邏 9
第二節 「御用御改めでござる」——家宅捜査 10
第三節 「ちょっとこい」——不審尋問 11
第四節 在京諸藩士の挑発と衝突 12
第三章 新選組の戦い 13
第一節 新選組の戦法——池田屋事件 13
第二節 池田屋事件の波紋 16
第三節 新選組の武術と武器 17
第四章 新選組の幕臣化と資金調達 20
第一節 会津藩のための金策 20
第二節 待遇と褒賞 21

第三節 禄位辞退から幕臣へ

第四節 会計の一端

第五章 新選組の肅正・分裂

第一節 「死さざれば脱退するを得ず」

第二節 隊士の再募集と脱走隊士

第三節 変わり種の隊士

第四節 伊東甲子太郎

第五節 高台寺党の分立

第六章 新選組の評判

第一節 戦場となる京都——禁門の変

第二節 近藤勇、京都に死す

第三節 恐れられた新選組

第四節 期待される調停機能

第五節 新選組の内部情報

第七章 長州征討から大政奉還へ

第一節 政治家近藤勇

第二節 高台寺党の殲滅——油小路事件

第三節 長州征討と新選組

第四節 鳥羽・伏見の戦

II 江戸の新選組

——もう一つの浪士組——

III 武装する日野宿

第二回特別展「新選組 京都の日々」イメージ曲作曲を終えて

藤田

勉

50

附 刀から鉄砲へ

56

附 贈答貨幣による褒賞儀礼

62

附 新選組・新徴組史料を現代文で読む

70

はじめに

70

1 驚くべき西川吉輔の情報交換ネットワーク

70

(1) 西川吉輔『新聞』(風説留) シリーズ

70

(2) 判明する平田派門人ネットワーク

70

① 近江の親族・門弟

70

② 彦根藩の尊王派藩士

71

③ 信濃・美濃の平田派門人

71

④ 関東の平田派門人

71

⑤ 京摂間の尊王派

71

⑥ 公卿家臣とその関係者

72

2 新選組の諸事件

72

(1) 大坂相撲との大喧嘩 文久三年(一八六三年) 六月三日

72

(2) 大和屋焼き討ち事件 文久三年(一八六三年) 八月十三日

73

(3) 大坂石蔵屋事件 慶応元年(一八六五年) 正月八日

73

(4) 膳所事件 慶応元年(一八六五年) 閏五月

74

3 肥後(熊本) 藩士との衝突 慶応元年(一八六五年) 九月七、九日

74

(1) 慶応元年(一八六五年) 『乙丑九月新聞』(西川吉輔)

74

(2) 慶応元年(一八六五年) 『乙丑十月新聞』(西川吉輔)

75

4 池田屋事件の周辺

76

元治元年(一八六四年) 六月 池田屋事件・明保野亭事件等留帳(上)

76

5 明保野亭事件・平岡円四郎惨殺事件

78

元治元年(一八六四年) 六月 池田屋事件・明保野亭事件等留帳(下)

78

① 明保野亭事件

78

② 平岡円四郎惨殺事件

78

6 近藤勇、会津藩の金策する

80

(1) 元治元年(一八六四年) 『甲子十一月新聞』(西川吉輔)

80

(2) 元治元年(一八六四年) 『甲子十二月新聞』(西川吉輔)

80

(3) 慶応元年(一八六五年) 『乙丑正月新聞』(西川吉輔)

81

(4) 慶応元年(一八六五年) 『乙丑五月新聞』(西川吉輔)

81

7 新選組、脱走隊士を捜索

81

慶応元年(一八六五年) 八月十九日 中津川宿庄屋肥田九郎兵衛宛加納宿森孫作書状写

81

8 禁門の変と新選組

82

(1) 元治元年(一八六四年) 七月 『会津藩老番部下始末大略』

82

(2) 元治元年(一八六四年) 七月十七日 江戸会津御用所宛京都御用所密事書状写

83

(3) 元治元年(一八六四年) 七月二十三日 江戸留守居宛会津藩京都留守居書状写

83

(4) 元治元年(一八六四年) 七月晦日 松平肥後守容保御届写

83

(5) 元治元年(一八六四年) 八月朔日 会津藩主侍女磯野書状写

83

(6) 元治元年(一八六四年) 八月二日 宮川宗兵衛書状写

84

9 近藤勇、近江八幡宮侍の家督相続に介入

85

文久三年(一八六三年) 十一月二十日 裏辻侍従の使者横山造酒から会津藩庁へ申入書写

85

10 新選組、関白二条家と仏光寺の争論に介入 慶応二年(一八六六年) 七、十月

85

(1) 慶応二年(一八六六年)『丙寅九月新聞』(西川吉輔)	85
(2) 慶応二年(一八六六年)『丙寅十月新聞』(西川吉輔)	86
11 山崎丞ら、近江八日市村の江戸出訴騒動に介入 慶応三年(一八六七年)三、四月	86
12 政治家、近藤 勇 長州征討の現実に直面	88
慶応元年(一八六五年)十二月二十二日 近藤勇、会津藩庁へ長州からの帰京報告	88
13 七条油小路の惨劇談	89
(1) 慶応三年(一八六七年)十二月中 聞書	89
(2) 慶応三年(一八六七年)十一月十八日 記録	89
14 新選組廃止論	90
慶応三年(一八六七年)『丁卯九月十一日新聞』(西川吉輔)	90
15 新選組の活動年表―庄内藩士以前― 文久三年(一八六三年)〜元治元年(一八六四年)	91
16 『藤岡屋日記』写本 文久三年(一八六三年)条	92
(1) 文久三年(一八六三年)十月十五日 幕府代官宛千住宿一丁目役人物代年寄忠蔵・紋右衛門訴状写	93
(2) 文久三年(一八六三年)十月頃 新選組小頭山本仙之助由来写(探索書)	93
① 祐天の生い立ち	93
② 祐天の出世譚	93
(3) 文久三年(一八六三年)十月二十日 老中板倉周防守宛神原重五郎吟味申上書写	94
(4) 文久三年(一八六三年)十月十七日 庄内藩主酒井繁之丞へ被申渡写	95
(5) 文久三年(一八六三年)十月二十八日 封廻状写	95
おわりに	95

第二篇 特別寄稿	97
幕末期の京都語について	99
はじめに	99
中井幸比古	99

第一章 幕末期京都語の概要	99
第一節 資料の乏しさ	99
第二節 近世後期上方語・明治期京都語の資料	99
第三節 近世後期上方語と明治以降の京都語の相違	100
第四節 幕末期の動向	100
第五節 幕末期の京都語の発音	103
第六節 公家の言葉	103
第二章 会 話	104
第一節 会話その一	105
第二節 会話その二	106
第三節 会話その三	107
第四節 会話その四	108
芹澤鴨と天狗党佐原騒動	111
はじめに	111
酒井右二	111
第一章 水戸天狗党と芹沢鴨	111
第一節 水戸藩の天狗党と玉造勢	111
第二節 芹沢鴨の出自	113
第二章 万延二年一月の佐原騒動と玉造勢	113
第一節 佐原騒動の経過	113
第二節 資金強奪の拡大	115
第三節 下村嗣次の行動と風聞	116
第四節 その他の玉造勢浪士	116
第五節 玉造勢の捕縛とその後	117
おわりに―文久三年の尊攘運動と地域情勢―	117

第三篇 第二回特別展 新選組 京都の日々 史料調査報告

第一章 新選組・新徴組関係史料集

第一節 真崎俊朗氏所蔵文書 滋賀大学経済学部附属史料館保管

西川吉輔『新聞』摘録

- 1 元治元年（一八六四年）『甲子十一月新聞』……………125
- 2 元治元年（一八六四年）『甲子十二月新聞』……………125
- 3 慶応元年（一八六五年）『乙丑正月新聞』……………125
- 4 慶応元年（一八六五年）『乙丑五月新聞』……………125
- 5 慶応元年（一八六五年）『乙丑閏五月新聞』……………125
- 6 慶応元年（一八六五年）『乙丑六月新聞』……………126
- 7 慶応元年（一八六五年）『乙丑七月新聞』……………127
- 8 慶応元年（一八六五年）『乙丑九月新聞』……………128
- 9 慶応元年（一八六五年）『乙丑十月新聞』……………128
- 10 慶応元年（一八六五年）『乙丑十一月新聞』……………129
- 11 慶応元年（一八六五年）十一月頃『巷の聞書』……………129
- 12 慶応二年（一八六六年）『慶応二丙寅正月新聞』……………129
- 13 慶応二年（一八六六年）『丙寅三月新聞』……………130
- 14 慶応二年（一八六六年）『丙寅四月新聞』……………130
- 15 慶応二年（一八六六年）『丙寅五月新聞』……………130
- 16 慶応二年（一八六六年）『丙寅九月新聞』……………131
- 17 慶応二年（一八六六年）『丙寅十月新聞』……………131
- 18 慶応三年（一八六七年）『慶応三年丁卯三四月新聞』……………131
- 19 慶応三年（一八六七年）『慶応三年丁卯五六月七八月新聞』……………132

20 慶応三年（一八六七年）『丁卯九十一月新聞』……………132

第二節 中津川市苗木遠山史料館所蔵文書

- 1 『見聞雑書』第五号 摘録……………133
- 2 『見聞雑話』第六号 摘録……………134
- 3 『見聞雑書』第十号 摘録……………136
- 4 『見聞雑話』第十四号 摘録……………138
- 5 『見聞雑書』第十七号 摘録……………139
- 6 『見聞雑書』第三十一号 摘録……………139

第三節 市岡文彦氏所蔵文書 中津川市中山道歴史民俗資料館寄託

- 1 市岡殷政代 御休泊留記 摘録……………140
- 2 慶応四年（一八六八年）『戊辰春風説』摘録……………140
- 3 文久三年（一八六三年）八月より『御霊祭（風説留）』摘録……………140
- 4 元治元年（一八六四年）六月十八日より『宮古の土産（風説留）』摘録……………141
- 5 慶応元年（一八六五年）九月より『理走那（風説留）』摘録……………142
- 6 慶応三年（一八六七年）正月より十二月『月輪詣（風説留）』摘録……………142

第四節 小澤朝夫氏所蔵文書

- 1 文久三年（一八六三年）十二月頃 近藤勇宛小澤文治郎書状箱……………143
- 2 文久三年（一八六三年）十二月二十七日 小澤文治郎宛近藤勇書状……………143
- 3 元治元年（一八六四年）正月十六日 小澤文次郎宛近藤勇書状……………143

第五節 平井氏所蔵文書

- 1 慶応三年（一八六七年）三月二十四日～四月朔日 新選組八日市宿探索増賞帳……………143
- 2 文久三年（一八六七年）一二月 公儀御触書写の高札……………145

第六節 昆陽農業協同組合所蔵文書

- 1 元治元年（一八六四年）七月二十五日 長州藩荷物につき新選組御出役宛昆陽駅問屋代・庄屋請書案……………145

2	元治元年（一八六四年）七月二十五日	長州藩荷物預り帰るにつき昆陽駅宛新選組河合春三郎・山崎大三郎人足触写	146
3	元治元年（一八六四年）七月二十六日	長州藩継立荷物につき昆陽村駅役人宛新選組出役預証文一札	146
4	元治元年（一八六四年）八月六日	長州藩中御継立荷物につき昆陽駅問屋代・庄屋受書案	146
5	元治元年（一八六四年）七月	長州藩継立荷物につき御受書案	146
6	元治元年（一八六四年）七月	長州藩継立荷物の覚案	146
7	元治元年（一八六四年）七月	長州藩継立荷物の覚	147
	第七節 実相院門跡所蔵文書		147
	『実相院日記』摘録		147
1	文久三年（一八六三年）二月六日条		147
2	慶応元年（一八六五年）五月九日条		147
	第八節 壬生寺所蔵文書		148
	慶応二年（一八六六年）正月 壬生寺地藏院嘆願書控		148
	第九節 柳内良一氏所蔵文書		148
	慶応三年（一八六七年）八月十七日 新選組にて西本願寺家来等召捕一件之覚		148
	第十節 鈴木氏所蔵文書		149
1	文久元年（一八六三年）正月二十日	柴田真斎宛三木荒次郎忠良書状	149
2	文久元年（一八六一年）七月二十七日	柴田真斎宛三木荒次郎書状	149
3	元治元年（一八六四年）八月四日	母上宛伊東甲子太郎・鈴木三樹三郎書状	149
4	元治元年（一八六四年）十月	伊東甲子太郎母こよ宛同妻うめ書状	150
5	慶応四年（一八六八年）正月	滋野井侍従・綾小路侍従宛太政官被仰出写	150
6	慶応四年（一八六八年）正月十一日	総裁宮御沙汰書	150
7	慶応四年（一八六八年）正月二十六日	大原前侍従宛被仰出写	151
8	慶応四年（一八六八年）六月	鈴木三樹三郎宛嘉彰親王判物	151
9	慶応四年（一八六八年）七月二十五日	残しおく言の葉草 (梧庵撰 伊東武明家集 稿本)	151
10	明治年未詳七月十三日	鈴木三樹三郎宛弾正台差紙	156
11	年月日未詳	伊東武明伝記稿本	156
	第十一節 宮川豊治氏所蔵文書		158
1	文久三年（一八六三年）四月十九日	宮川音五郎宛近藤勇書状	158
2	慶応二年（一八六六年）七月四日	宮川音五郎宛沖田総二（総司）書状	158
3	慶応三年（一八六七年）十一月朔日	島崎彌宜宛青木勘次郎・島崎玄弥連書状	158
4	慶応元年（一八六五年）五月頃	近藤勇書状（追啓）	158
	第十二節 日野市所蔵「井上恒正コレクション」		158
	元治元年（一八六四年）六月 池田屋事件・明保野亭事件等留帳		158
	第二章 新選組関係史料影印		161
	長倉新八『浪士文久報国記事』		161
	英文目次		188